

反改憲運動

通信 第7期

2011.7.20

No. 04

1部 200円

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A
淡路町事務所気付 Tel. & Fax. : 03-3254-5460
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>
年間定期購読料 4,000円 (2011.6~2012.5)
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

8・6ヒロシマ平和へのつどい2011へ

「広島が叫んできた『ノーモア・ヒバクシャ』の声の、これまでの弱さと狭さをとらえ返し、すべての核被害者への無念の思い、無数の嘆きを受け止め、原子力科学技術に依存する文明からの根底的な転換を問われなければならない」(ヒロシマ平和へのつどい2011呼びかけ)。

1978年の反原発集会の流れを汲んでいる「8.6ヒロシマ平和へのつどい2011(代表/田中利幸)」は、「ヒロシマ・ナガサキからフクシマまで 原発も核兵器もない世界へ!」と題して、いわき市議の佐藤和良さん、長崎の平野伸人さんを迎える。今まで核被害者世界大会は1987年ニューヨーク、1992年ベルリンで開催されているが、2015年広島開催への課題を考える。むろん、原爆民衆法廷(2006年、2007年)ですら、あんなに大変だったのだから、この事業は並大抵でない。8月5日(金)17時半から広島市市民交流プラザ(袋町小学校)で開催する。その後、20時から脱原発全国交流会。ちなみに、原水禁が18時半から、原爆ドーム前で脱原発集会を初開催する。

8月6日の中国電力本社までのいつものデモは、「原発・核兵器なしで暮らしたい人々」という新たな枠組みの主体で「8.6ヒロシマNO MORE ヒバクシャ みんなでウォーク〜原発も核兵器もない世界へ〜」と銘打って取り組む(9時に原爆ドーム前を出発)。20~30代の青年が大挙して登場する。

午後の集会は、「核兵器廃絶をめざすヒロシマの会」「ウラン兵器禁止を求める国際連合-ジャパン(ICBUW-Japan)」「原発・核兵器なしで暮らしたい人々」「ECRR市民研究会-広島」の四者共催で「内部ヒバク」から問い直す核/原子力体制-ヒロシマ・イラク・フクシマ-との構えだ。ここの問題意識を説明したい。

ICRP(国際放射線防護委員会)の防護基準が、国際原子力機関(IAEA)、世界保健機構(WHO)、全米科学アカデミー、

各国の放射線防護の規制当局を支配している。この基準が市民を被曝させている根源だ。日本政府はその基準すら緩めているのだ。ヒロシマベースには様々な重大な不備がある。高線量から低線量への外挿、急性被ばくから慢性被ばくへの外挿、外部被ばくから内部被ばくへの外挿、戦争生存者からの外挿などなど。考え方、モデルが全く違うECRR(欧州放射線リスク委員会)の防護基準は、年間公衆被曝線量を年間0.1ミリシーベルト(ICRPの最低値の1/10)と言っている。

結局、我々は、広島・長崎・ビキニの体験を持ちながらも、放射線の脅威を軽んじてきたのである。「フクシマ」に直面し、「人類最初の核攻撃による被爆地」を標榜し、「被爆者の悲惨」を世界に訴えながら、放射線に対する正しい理解への努力とその普及を全く怠ってきたことを後悔の念をもって自己批判せざるを得ない。もしヒロシマがその努力を怠らなかったら、あるいは「フクシマ危機」は存在しなかったかもしれない。反原水爆、反原発の反核運動を標榜しながら、何をしてきたのかという話になる。

まだ、宿泊は可能であるので、土曜日の8・6へ一泊を考えてほしい。例年通り長崎にも僕は行く。

他にフィールドワークが①平和公園・碑めぐり②広島城周辺徒歩コース③宇品・比治山自動車コース④原民喜没後60年原民喜の「夏の花」を歩く⑤米軍岩国基地/錦帯橋バスツアーがある。

(久野成/「8.6ヒロシマ平和へのつどい2011」)

「核兵器廃絶をめざすヒロシマの会」「原発・核兵器なしで暮らしたい人々」「ECRR市民研究会-広島」

問い合わせは次です。

電話:090-4740-4608 FAX:082-297-7145

Eメール:kunonaruaki@hotmail.com

HP:<http://www.d6.dion.ne.jp/~knaruaki/>

(※6ページ集会・行動情報参照)

▶「日の丸・君が代」の歴史を知る者には、それらを「国旗・国歌」と規定する法律を成立させたこの国の、「平和」も「民主主義」も信じることなどできない。そしてこの法律は、旗を尊重し歌は心を込めて歌えと強要する教育行政の、間違いなく力となっている。迷惑な右翼の後盾ともなっているだろう。▶いや、実はこの法律が成立する以前から、この国はこの旗と歌を特別に扱うことを強要し、「できない」という人びとに

憲法

「起立し心を込めて」歌うこと、ピアノによる伴奏を強制してきた。そもそもこの旗と歌には、何かそういう力が持たされているのだ。だからこそ多くの人が反対してきたし、支配する側は戦前も戦後もこの旗と歌に固執するのだ。▶それらに対するすべての異議申し立ては、罰則や排除や恫喝だけでなく、司法によっても社会から抹殺された。思想信条の自由とは? この憲法は旗と歌ごときに負けているのだ。(大)

長崎の「25th ピースウィーク 2011」

今年のコピーは“原発なくても生きられる——電気は十分足りてます”です。

時代の要請をがっちり受け止めて、「原爆と原発」を中心に置き、人間と核は共生できないことを改めて学び直そうと考えています。軍需産業三菱の兵器工場をバスで巡る「ピースバス」は、加齢と健康上の問題で今年は休みます。

(舟越耿一／ピースウィーク実行委員会)

.....

7月31日(日) 14時～ 教育文化会館

雇用と人権を守るために——国労23年の闘い

〔講師〕榎本英俊さん(国労長崎地区闘争団長) 500円

8月2日(火) 18時～ 教育文化会館

あなたに見てほしい2本のDVD、無料

〈ダーク・サークル〉プルトニューム・核廃棄物の危険性を訴えるドキュメンタリー

〈脱原発への道〉小出裕章・後藤政志・石橋克彦・孫正義の参院行政監視委員会発言

8月6日(土) 13時半～教育文化会館

「福島原発事故の真相」

〔講師〕菊池洋一さん(元原発技術者) 500円

8月7日(日)

福島事故から何を学ばか——どうする日本の原発政策

〔講師〕安斎育郎(立命館大学名誉教授、放射線防護学) 大人1000円、高校生以下500円

8月8日(月)

●集合9時半 大浦海岸通電停ときわ栈橋

ピースクルーズ軍艦島上陸

出航10時、大人4200円、中高生3000円、小学生2000円、未就学児1000円。さらに上陸料300円、県外からの訪問者優先企画。波高50cm以上のときは周遊のみ。

●15時半、教育文化会館4階和室

「生きて」

被爆者下平作江さんの講話と音楽家ドゥマルシェさんの演奏とのコラボ、500円

●18時半、教育文化会館

被爆体験を語り継ぐ会——在韓被爆者・郭貴勲さんの証言、資料代500円

8月9日(火) 10時～、爆心地公園

ピースウィーク市民集会

※ピースクルーズを除く各イベントは共通券2000円でフリーパスとなります。

※問い合わせ：ピースウィーク実行委員会

FAX:095-822-4098

2011 ヤスクニ・キャンドル行動 反ヤスクニ、反原発のたたかいの結合を!

2011年夏、今年もまた「平和の灯を! ヤスクニの闇へキャンドル行動」を実施します。

今年のテーマは、「3.11後の東アジア—原発とヤスクニが強い国家と犠牲」。

3.11から4カ月以上が経過しました。しかし、いまだにフクシマ原発震災が収束する見通しは立っていません。その中で、恐ろしい事実が明らかになっています。福島の子どもの45%は内部被曝しました。子どもたちの尿からセシウムが検出されました。そして、福島県から1万人を超える子どもたちがいなくなりました。子どもたちはヒバクシャにさせられ、住み慣れた家と町を奪われ、保育園・幼稚園・学校で遊び、学ぶ権利を奪われ、掛け替えのない友を奪われ、フクシマの地を去らざるをえなくなったのです。フクシマのディアスポラ。

そして、多くの労働者たちが、大量に被曝しつつ、まともな食事・睡眠もとれず、被曝検査さえもされぬまま原発事故収束のために働いています。それらの“英雄的な”労働者の殆どが「協力会社」「下請会社」社員であり、多くは震災の被災者です。被災者が原発震災の中でさらに被曝し、いま、そのうちの何割かは「連絡先不明」とされ闇に葬られようとしています。

権力＝国策＝中心部のために利用され、犠牲を強いられてきた周辺部とそこに生活をする人びとが理不尽にも二重の犠牲を押しつけられているのです。オキナワと同じように。

他方、原発を推進した者たちは、原発事故の状況、その過酷さ、放射能汚染の実態、子どもたちへの影響の深刻さ等を隠し、ウソをつき、ゴマかし続けました。その結果、被害は広がり、深刻化しました。しかし、彼らはメディアを動員し「がんばろう日本」「日本は強い国」等とキャンペーンし、人災を「国難」化し、それを乗りきるために「ひとつになろう」と呼びかけることで責任追及を封じこめています。

何と分かりやすい構造。戦場に動員され、「生きて虜囚の辱めを受けず」(戦陣訓)の呪縛により玉砕に追い込まれ、餓死を強いられた兵士を「国難」に殉じた者として「英霊」化することで、戦争責任追及を免れた者たち、その後裔たちがいまだに原発震災の責任追及を逃れようとしているのです。このような無責任の連鎖をどう断ち切っていくのか?

8.13の2011 ヤスクニ・キャンドル行動は、フクシマ原発震災の中であらわれてきたヤスクニ思想、論理をあばき、それを克服していくことを確認しあう場です。原発推進への加担、安全神話の信じ込みを「懺悔」し、脱原発を言うてすますのではなく、責任の所在、責めを負うべき者たちを明らかにし、責任追及を徹底して進めていかなければなりません。その中でこそ原発震災を克服していく道が開かれていくはずです。

(矢野秀喜／平和の灯を! ヤスクニの闇へ
キャンドル行動実行委員会)
(※6ページ集会・行動情報参照)

国家による「慰霊・追悼」を許すな！ 7.30、そして8.15 連続行動へ！

多くの人にとってそうであるように、3.11以後、私たちもいろいろと忙しくなっている。単純に、参加すべき集会やデモ、会議が増えた。天皇の「被災地巡幸」、「復興ナショナリズム」と「生の序列化」という現実など、3.11以後の現実は、それとして反天皇制運動に対しても新たな課題をつきつけている。

そしてまた、まもなく8.15がやってくる。この日、例年、日本武道館で天皇出席のもとでおこなわれている「全国戦没者追悼式」は、かつての戦争の死者を、戦後日本の「復興」の礎として位置づける儀式である。そして、この政府式典の行なわれるすぐそばで、「東亜解放」の礎としてその死者の死を意味づけようとする靖国イデオロギーもまたふりまかれる。3.11以後、変わりゆく現実の中で、8.15をめぐる政治的な構図は不変であるかのように見える。それは、果たしてそうなのか。そのことの検証が、今年の8.15行動の課題のひとつでもある。

さて、今年の8.15行動は、久しぶりの前段集会と、当日の集会・デモという二段構えで行なう予定だ。

まず、7月30日、池袋のECOとしまで行なわれる前段集会。毎年8.15を前後して、首都圏だけでも、私たち反天皇制運動実行委員会だけでなく、さまざまな行動が取り組まれている。私たちも、当日はアピールの交換や、ときにはデモですれ違ってエールを交換するなどしてきた。今年の7.30

は、そういった人びと（許すな！靖国国営化阻止東京集会実行委員会、靖国解体企画、「平和の灯を！ヤスクニの闇へ」キャンドル行動実行委員会、アンポをつぶせ！ちょうちんデモの会、わだつみ会のメンバー）に集まっていたき、それぞれの8.15行動への問題意識を交換しあい、交流していこうと考えている。

そして当日。午後、在日本韓国YMCAの9階ホールで集会をもつ。講師は、加納実紀代さんで「原爆・原発・天皇制」と題してお話しいただく。そのあと、靖国方面に向けてデモに出る予定だ。

最後に、またうっとうしい話をしなければならない。私たちのデモも、ここ数年は従来の街宣右翼に加えて、在特会やら頑張れ日本！全国行動委員会といった「市民右翼」によるカウンター攻撃を受けている。デモ隊よりも多くの人間が「日の丸」を押し立て、差別的・排外主義的な言辞をまきちらすのみならず、デモ隊に向けてペットボトルや生卵を投げつけるなど卑劣な行為を繰り返している。今年は、彼らの仲間が、「反靖国デモをやらせない」ための地域署名を集めて、東京都公安委員会に提出したようだ。こうした状況に対する反撃は、なによりも集会とデモを、きちんと安全にやりきることを描いてないと思う。そのためにも、多くの参加者に集まっていたきたい。ぜひ、ともに。

（北野誉／8.15行動実行委員会）

◆ 報告 ◆

ココロ裁判は何を聞いてきたのか ——最高裁判決の日——

「学校に内心の自由を求めて『君が代』強制を憲法に問う」裁判、北九州「君が代」訴訟ココロ裁判の最高裁判決の日である7月14日、福岡から19人の原告のうち3人を迎えて「ココロ裁判は何を聞いてきたのか」をあらためて問いなおす集会が持たれた。

この集会を呼びかけたのは、東京・神奈川の地から、この裁判に注目し続けてきた北村小夜、京極紀子、桜井大子、チェソソエの4人である。

「日の丸・君が代」問題では、ひどい判決ラッシュである最高裁判決に、何も期待できない状況で、「内心の自由」（ココロの自由）を踏みにじる「棄却」判決を自分たちの「ココロ」に刻み込む、状況の絶望感を、共有するための集まりであった。

こう書くと、暗い暗い集まりを想起するかもしれないが、実は、15年間、弁護士たちに頼らずに「本人訴訟」という原告の一人ひとりの明確な自己主張（思想）を展開する場所に裁判所をつくりかえてきた人びとの「判決」を拒否する態度（主張）を囲んで持たれたこの集まりは、絶望をのみくだした明るさに満ち満ちていた。大阪における「君が代」条例の制定に象徴されるように、「自由」のしめつけはさらに拡大強化されている。だからこそ、判決をこえてココロの闘いはさらに持続されなければならないことにこそ自覚的な人びとの集まりであったのだ。資料として配られた呼びかけ人の最高裁

への結集を呼びかけた「ココロ裁判」への思いをこめた言葉を紹介する。それは、この裁判の意味をよく語りつくしていると思う。

ココロ裁判は何を聞いてきたのか ～新たな「戦後」を追い求めて

「1986年、はじめて、中曽根元首相が靖国神社を公式参拝した年、日本は、大きく戦後のかじをきった。この年、北九州教育委員会は、「ここをこめて（君が代を）うたうこと」などの4点指導を始めた。／「国歌斉唱」と同時に着席する小6の少女、全身を震わせ「立て！」と叫ぶ校長や教頭、ここに、ふたつのココロがあった。／「ここをこめてうたう」？／自分のココロに聞いた、ココロは答えた。この曲は、うたえない。数知れないひとびとの命を奪った曲なのだから。うたえない、ことにこそ、ココロは宿っているのだ。／ここを問い、自らの言葉を探し、法廷に響かせ、新たな「戦後」を開こう、と求めた19人の原告…。いま、何を想っているだろう。／日本で初めて、君が代不起立処分者が出た北九州。あれから25年。地裁一部勝訴、高裁で敗訴。そして提訴から15年目、福岡から最高裁へ、／「ココロ裁判」はこれからも最高裁の向こう岸をみつめている。

（天野恵一／事務局）

◆報告◆ 原発のない日本は可能だ! 再稼働を許さず、来春の全停止を! ～7・7 緊急の院内集会と首相官邸前アクション～

玄海原発2、3号機を突破口に、停止中の原発の再稼働に突き進む。経産省と電力会社のシナリオは、いったん頓挫を余儀なくされた。7月6日、菅首相の指示に基づき、ストレステスト(耐性試験)を再稼働の条件とすることが急浮上。九電による「やらせメール」事件の発覚も重なり、玄海原発、伊方原発の再稼働は寸前で止まった。

その直前、緊迫した状況の中で、地元佐賀県や北九州では、座り込みやハnstなど様々な取り組みが始まった。東京でも、7日、現地の動きに呼応した緊急行動が取り組まれた。午後には参議院議員会館で原子力資料情報室などによる院内集会と政府交渉。出席した石橋克彦さんは「大きな事故の誘因となるような事象が過去においてなかったことはもちろんであるが、将来においてもあるとは考えられないこと」等と記された「原子炉立地審査指針」にふれ、「大津波という大災害と全交流電源喪失という事故を想定すべき原発は、審査指針違反」と強調した。交渉では、保安院と安全委員会が認識と能力において安全を審査する資格を喪失していることが浮き彫りになった。

夕方には、福島原発事故緊急会議が呼びかけた「菅首相は玄海を再稼働させるな! 首相官邸前アクション」が約200人の参加で行われた。佐賀現地から石丸初美さん(玄海原発プルサーマル裁判の会)のアピールが携帯電話をマイクにつなぎ届けられた。また土居智典さん(長崎外国語大学)のメッ

セージも代読された。続いて、緊急会議をはじめ、反原発自治体議員・市民連盟、もんじゅ西村裁判原告の西村さんなど団体、個人が要請書を内閣府に提出。さらに、福島瑞穂社民党党首、アイリーン・美緒子・スミスさん(グリーン・アクション)、天野恵一さん(被曝労働問題プロジェクト)、満田夏花さん(FoE Japan)、岩下雅裕さん(電力総連申し入れプロジェクト)、高木章次さん(プルトニウムなんていないよ! 東京)などの発言が続いた。キャンドルが灯される中、最後にシュプレヒコールとショートコールに参加者が声を合わせた。

停止中の原発が一機も再稼働できない場合、運転中の原発も定期点検に入るため、来年5月には全原発が停止する。原発推進派は危機感を抱き、「電力料金が上がる」「企業が海外に逃げる」等の扇動を開始している。

ストレステスト自体が、一次評価という名の簡易テストによって早期の再稼働に道を開きかねない。巨大大事故の「戦犯」たる電力会社、保安院、安全委員会がテストの実施主体となっているのは言語道断だ。「ストレステストではなく廃炉へ」の声を強め、来春の全原発停止を引き寄せよう。東京では、震災半年となる「9・11」に原発立地道県での取り組みと連帯する同時アクションを実現しようと相談が始まりつつある。

(杉原浩司/福島原発事故緊急会議)

原発を読む◆ 『これでいいのか福島原発事故報道』

丸山 重威 著/
あけび書房/1600円+税

『本書は〈3・11〉から2か月後にまとめられらもの。スタンスは編・著者の丸山重威の「まえがきに換えて 福島原発事故とジャーナリズム」のなかの以下の言葉に明示されている。

「水平線に見え隠れした『原子力時代』への洞察でできなかった責任を云々するのではなく、いま巨大な岩礁が次々に現れてきている、『原子力という暗礁の海』に足を踏み入れた人類に、『引き返せ』と警告するのは、いま、『フクシマ以後』を生きる現代のジャーナリズムの使命ではないでしょうか」。

もちろん「引き返せ」の警告は、原発推進メディア(政府・電力資本・御用学者の一体化したシステム)への歴史的責任を問うことと別のことではない。

収められている論文は8本。『「想定」されていた原発事故』(伊東達也)、「原子力開発における言論抑圧と安全神話の形成」(館野淳)、「低線量被ばく報道はこれでいいのか」(崎山比早子)、「原子力、報道と広報の限りなき同化」(塩谷喜雄)、「原発労働者〃被曝、の実態」(布施祐仁)、『「原子力安全キャンペーン」の系譜と『がんばろう日本』の仕掛け人』(三枝和仁)、『「脱原発」の声と運動はどう報道されたのか』(齊藤春芽)、「バラ色の原発推進論とメディアの責任」(丸山重威)。これに「日弁連」「被団協」などのマスコミが重視しなかった

声明が資料として集められている。

例えばこの間、私がもっとも注目している「被曝労働者問題」を扱った布施論文はこうだ。働いている労働者の命(安全)より利益優先の東京電力の体質が、そこで働いてきた労働者のナマの声で明らかにされている。さらにそこが、正社員ではなく、下請け、孫請け、ひ孫請け業者が実際の現場作業を扱うピラミッド構造になっており、中間の会社(実はヤクザなど)によってマージンが抜かれ、労働者の手に渡る金は少ないという実態もリアルにレポートしている。

そして、この論文の結語はこうだ。

「どんなに『安全』と言ってみても、稼働させる限り、そこで働く人たちの被曝は避けられないのが原発だ。今回のようにいったん重大事故が発生すれば、その被曝量はケタ違いに高くなる。それでも『原発は必要だ』と言えるだろうか」。

収められた諸論文は、「原発」から「引き返せ」という切実な呼びかけに満ちている。それはマスメディアの嘘と操作の歴史的蓄積を批判的に突き崩す実証的パワーに支えられた「叫び」である。

〈3・11〉直後に短時間でまとめられたものであるが、拙速とは反対で、状況の緊張感が問題の掘り下げを鋭くした、タイムリーな「報道」批評の好著である。(天野恵一/事務局)

反改憲ニュースクリップ

2011年7月1日～7月15日

菅首相が「脱原発」宣言

【7月1日】〈自衛隊〉自民党が「原発警備に関する検討会」(座長・浜田靖一元防衛相)を開き、自衛隊法81条の2で定める「警護出動」の対象に原子力関連施設を追加するなどの検討を開始。自衛隊法改正案を議員立法で提出することも検討している。

【7月2日】〈馬毛島〉在日米軍の空母艦載機離着陸訓練(FCLP)移転候補地として挙げられている鹿児島県の馬毛島について、南西地域の防衛態勢充実に向けて同島に整備する自衛隊施設の概要やFCLPの飛行ルートなどを防衛省が明らかにした。自衛隊施設では、エアクッション型揚陸艇や輸送ヘリでの上陸のほか、空挺部隊の降下などの訓練を日常的に行う。防衛省試算では、訓練受け入れの見返りとしての地元自治体への交付金は10年間で約250億円となる。小川勝也副大臣が西之表市を訪れて地元首長らに説明した。

【7月4日】〈PKO〉政府の「PKOの在り方に関する懇談会」(座長・東洋三副内閣相)が、停戦監視など、国連平和維持軍(PKF)本体業務への自衛隊参加を検討すべきだとする中間報告をまとめた。枝野幸男官房長官は懇談会で「今秋にも次の政治レベルの会合を開催し、必要な判断を示す必要がある」とあいさつした。懇談会は国際貢献の強化をテーマとして昨年10月に設置。外務、防衛両省の副大臣や関係省庁の局長級幹部を中心に検討を進めてきた。

【7月5日】〈普天間〉北沢俊美防衛相ら防衛省の政務三役が、上京していた稲嶺進名護市長との面会を拒否。辺野古移設に関して沖縄防衛局の説明を市側が拒んでいるのが理由で、北沢氏は記者会見で「聞く耳を持たないで上京するより、状況を十分承知した上で、意思表明や提言をしてほしい」と批判した。

【7月7日】〈自衛隊の海外基地〉ソマリア沖での海賊対策のためジブチに設置された自衛隊活動拠点の開所式が開かれた。P3C哨戒機の整備用格納庫も保有。自衛隊にとっては初めての本格的な海外駐留基地となる。これまではジブチ空港南側の米軍基地の一部を間借りしていたが、司令部庁舎、隊員宿舎、食堂、体育館、浴場なども備えた基地を47億円で建設。哨戒機2機、護衛艦2隻での活動が続く。〈板橋君が代訴訟〉2004年3月、東京都立板橋高校の卒業式で、国歌斉唱の強制に反対し保護者に不起立を呼びかけて式典を妨害したとして、威力業務妨害罪に問われた元同校教諭の上告審判決で、最高裁第1小法廷(桜井龍子裁判長)が被告側の上告を棄却した。裁判官5人全員一致の結論。これで罰金20万円を命じた1審東京地裁、2審東京高裁判決が確定した。判決は「被告の行為は、静穏な雰囲気の中で執り行われるべき卒業

式の円滑な遂行に看過し得ない支障を生じさせ、社会通念上許されない」としたが、実際には式の開始が2分遅れただけだった。

【7月8日】〈スーダンPKO〉国連の潘基文事務総長が読売新聞のインタビューに応じ、9日に独立する南スーダンの平和維持活動(PKO)で「日本によるヘリコプターの提供を望む」と発言。自衛隊ヘリ部隊の派遣を求める方針を明らかにした。8月上旬に来日する際に菅首相に直接要請すると語った。〈ソマリア沖派遣〉政府の安全保障会議と閣議で、今月23日に期限を迎えるソマリア沖での海上自衛隊による海賊対処活動の1年間延長を決定した。延長は昨年7月に続き2回目。

【7月11日】〈浜松基地自衛官自殺訴訟〉2005年に自殺した航空自衛隊浜松基地所属の男性3等空曹の遺族が「先輩隊員のいじめが自殺の原因」として、国と当時の先輩隊員に賠償を求めた訴訟で、静岡地裁浜松支部が国に約8015万円の支払いを命じる判決。先輩隊員のいじめと自殺との因果関係を認めた。3等空曹は、1995年の入隊以降約10年間、先輩隊員から仕事上のミスなどを理由に殴る蹴るなどの暴行を受けた。

【7月12日】〈原子力〉経団連が福島第1原発事故を踏まえた今後のエネルギー政策に関する提言を発表した。電力の安定供給や発電コストの観点から原子力発電を「引き続き着実に推進」と位置付け、定期検査を終えた原発の早期稼働を求めた。

【7月13日】〈首相の「脱原発」宣言〉菅直人首相が「原発に依存しない社会を目指すべきだと考えるに至った」と記者会見で発言。ただ、具体的なスケジュールや政府内での議論の進め方などについての言及はなかった。枝野官房長官は翌日の記者会見で「遠い将来の希望という首相の思いを語った」と述べ、内閣としての統一見解ではないことを明らかにした。

〈原子力〉日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)が代表理事会を開き、全ての原発を順次停止・廃炉にするよう国に求める運動方針を正式に決定した。1956年の結成以来、日本被団協が「脱原発」を運動方針に掲げるのは初めて。

【7月14日】〈北九州君が代訴訟〉入学式・卒業式での君が代斉唱で起立を拒否し懲戒処分を受けた北九州市の小中学校教諭らが市教委などに処分取り消しなどを求めている訴訟で、最高裁第1小法廷が合憲判決。宮川光治裁判官だけが「命令は明白に違憲とは言えないが、必要不可欠だったかどうかさらに詳しく審査する必要がある」との反対意見を述べた。2008年の福岡高裁判決がこれで確定した。〈原子力〉リトアニア政府が新型原発建設の独占交渉権を日立・GE連合に与えると発表。年末までの交渉で詳細を詰め、受注が正式に決まる。福島原発事故後で初の海外受注となる。日本国際協力銀行も融資の準備を進めている。

【7月15日】〈馬毛島〉鹿児島県西之表市の住民団体「自衛隊訓練施設設置の推進を求める会」が同市市長と市議会に米空母艦載機訓練と自衛隊訓練基地設置を求める要望書を提出。同団体のメンバーは陸自OBや元市議ら約20人。要望書は、
▷米軍基地化しない▷騒音被害を生じさせない▷漁業補償を適切に進めること、などを条件に挙げた。

私も一言 134

加藤一夫（「ビキニ市民ネット焼津」代表、
「くろしおネットはまおか」顧問）

ビキニ事件とフクシマ

私の住んでいる焼津市は、57年前太平洋ビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験で被災した第五福竜丸の母港である。いわゆるビキニ事件（第五福竜丸）である。12年前からこの事件を再検証する活動にかかわっているが、この事件では第五福竜丸だけでなく、全国で1000隻を超える漁船や貨物船が被曝し、約2万人が「死の灰」を浴び、その後、その多くがガンで亡くなっていることが分かってきている。

この水爆実験（67回行われた）で太平洋全域、アメリカや日本全土にまで放射線汚染を引き起こしたが、当時の日本政府は、対米従属を重視して情報を隠蔽し、そして事件そのものを封印してしまった。皮肉なことに、原発政策はこの事件を機に始まっ

ている。原爆へ日本人が抱いていた恐怖心とアレルギーを、原子力の「平和利用」という詐欺で取り込んだのだ。

今回の福島第一原発事故をみる場合、ビキニ事件の実相と照らし合わせてみなければならない。なぜなら事態収束の方向や政策の構造は、何も変わっていないからだ。

ところで、焼津市は御前崎市にある浜岡原発から25～30キロ圏内にあり、漁業と水産加工業中心のこの地域の人々の心は揺れている。菅首相は、この原発を一時的に止めたが、それで安心できるものではない。35年前から叫ばれてきた東海地震が近づいていると感じているからである。地震による最初の一撃で原発が崩壊するといわれているからである。地元での永続的停止（廃炉）を求める運動も高まっている。

放射線汚染の影響は全国に広がっているが、情報の隠蔽は相変わらず。野菜、茶、牛肉だけではない。この町では、魚汚染について戦々恐々だ。海洋汚染や魚の汚染の実態を隠しているからだ。

おそらく、今後、政権内の混乱に乗じて政府は情報を国民に伝えることをやめ、国民も被曝に慣れて危機感を薄めていくであろう。そのように誘導するようすでに産業界やメディアが動き出している。国民・市民の対抗策が問われている。そうでないと、「被爆国日本」のすべての国民がヒバクシャになってしまいうだろう。

集会・行動情報 7/24～8/15

▶7/24（日）「君が代」最高裁判決糾弾！大阪府「君が代」条例撤廃！ 7・24集会◆13：30集会、16：30デモ◆文京区民センター3A（都営地下鉄三田線、大江戸線「春日」駅下車）◆資料代：500円◆石原・大原都教委の暴走をとめよう！都教委包囲・首都圏ネット（090-5415-9194）

■朝鮮高校にも差別なく無償化適用を求める7・24集会◆13：30開場◆名古屋市千種区役所2階講堂（名古屋地下鉄東山線「池下」駅下車）◆資料代：500円◆朝鮮高校にも差別なく無償化適用を求めるネットワーク愛知

▶7/28（木）「自衛隊は南スーダンに行くべきではない～PKO5原則見直し、ジブチの基地建設など海外派兵に異議あり」緊急院内集会◆お話：栗田禎子（千葉大学教授・スーダン現代史）◆12：45～◆衆院第2議員会館第8会議室（東京メトロ「永田町」国会議事堂前駅下車）◆呼びかけ：許すな！憲法改悪・市民連絡会、平和を実現するキリスト者ネット、平和をつくり出す宗教者ネット、憲法を生かす会、平和憲法21世紀の会、アンポをつぶせ！ちやうちんデモの会

▶7/30（土）それぞれの8・15行動 これまでとこれから 国家による「慰霊・追悼」を許すな！8・15反「靖国」行動・ブレ・討論集会◆18：00～◆ECOとしま（豊島区生活産業プラザ）多目的ホール（池袋駅東口下車）◆国家による「慰霊・追悼」を許すな！8・15反「靖国」行動（090-3438-0263）（※p3参照）

■講演会「3/11以後——考えていること」◆鎌仲ひとみ（映画監督）◆18：30～◆立川・柴崎学習館（立川駅南口下車）◆資料代：500円◆市民のひろば・憲法の会（042-524-9863加藤、042-336-4201城戸）

▶7/31（日）トーク&ライブ「未来に輝け上関・祝島 [原発なくても大丈夫]!!」◆13：00～◆トーク：氏本長一、菅波完、大沢ゆたか、座談会「原発なくても大丈夫」：鎌仲ひとみ、氏本長一、内田ボブ、ライブ：内田ボブ、ノブトウマサザネ◆パレード：16：00～◆東京ウィメンズ

プラザホール（東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道」駅下車）◆チケット事前予約1000円、当日1200円、問い合わせ：03-3357-3800（原子力資料情報室）◆主催：上関原発どうするの？～瀬戸内の自然を守るために～（上関どうするネット）

■アイヌ政策はどうなるのか～「アイヌ政策推進会議」報告書を受けて◆13：30～◆お話：阿部ユボ、堂本照樹、上村英明ほか（予定）◆東京・麻布台セミナーハウス（東京メトロ日比谷線「神谷町」駅下車）◆先住民族の10年市民連絡会、市民外交センター

▶8/5（金）8・6ヒロシマ平和へのつどい2001 ヒロシマ・ナガサキから福島まで——原発も核兵器もない世界へ◆17：30～◆報告：田中利幸（基調提起）、木原省治（広島）、平野伸人（長崎）、佐藤和良（福島）◆広島市まちづくり市民交流プラザ北棟5階研修室ABC◆参加費1000円◆主催：同実行委員会（090-4740-4608）（※p1参照）

▶8/6（土）NO MOREヒバクシャ みんなでウォーク◆8：30～原爆ドーム前のつどい、9：00～ウォーク◆原発・核兵器なしで暮らしたい人々（※p1参照）

■集会「内部ヒバク」から問いなおす核／原子力体制・ヒロシマ・イラク・フクシマ◆13：30～◆広島市まちづくり市民交流プラザ北棟6階マルチメディアスタジオ◆核兵器廃絶をめざすヒロシマの会など

▶8/9（火）長崎ピースウィーク市民集会◆10：00～◆爆心地公園◆同実行委員会（※p2参照）

▶8/13（土）平和の灯を！ヤスクニの闇へ キャンドル行動◆12：30～◆シンポジウム「3・11後の東アジア——原発とヤスクニが強い国家と犠牲」：高橋哲哉、韓洪九、石原昌家、潘朝成◆コンサート＋遺族証言◆全電通会館（JR・東京メトロ「御茶ノ水」駅下車◆参加協力券1000円◆同実行委員会（03-3355-2841四谷総合法律事務所）

▶8/15（月）国家による「慰霊・追悼」を許すな！8・15反「靖国」行動（※p3参照）